

## 九州のキリスト教シリーズⅡ

# 南蛮の鼓動 大分に残るキリシタン文化

◎会期／2010(平成22)年5月27日(木)～7月3日(土)

### 九州のキリスト教シリーズ

本シリーズは九州各地のキリスト教文化にスポットをあてたもので、歴史学や考古学、美術史などから、当時のキリスト教文化の特色やキリシタン信仰の足跡をたどります。そして、キリスト教の伝播過程や信仰形態から、日本人がキリスト教を受容した姿に迫ります。本シリーズを通じて、キリスト教文化圏の実像と九州のキリスト教への認識を深める機会にしていれば幸いです。

### 開催概要

フランシスコ・ザビエルが来航してから、日本にキリスト教がもたらされます。これを受けて大分では、領主の太友氏の援助もあってキリスト教に関する施設が設置されました。特に太友宗麟は自らも洗礼を受けキリシタン大名としてキリスト教を積極的に保護したことにより、南蛮文化が芽生える土壌を作りました。また、現在でも大分各地にはキリシタン遺跡も数多くあり、発掘により多くの成果が挙げられています。こうした禁教以前に繁栄したキリスト教文化の実像やキリシタン大名である太友宗麟の事跡を紹介するとともに、豊後府内のキリシタン信仰の姿に迫ります。これにあわせて南蛮貿易により栄えた太友領も紹介していきます。



展示室風景

### ◇展示構成

#### I. 太友宗麟と豊後府内

自らもキリシタン大名として、キリスト教を保護した太友宗麟。豊後国は日本キリスト教布教の本拠地ともいわれるほどでした。こうした太友宗麟の事績と当時の豊後府内の様子を紹介します。

〔主な資料〕  
太友宗麟画像(複製)(津久見市)  
天正遣欧使節肖像(複製)(津久見市)  
府内病院想定復元模型(大分県立歴史博物館)など



#### Ⅲ. 受容と信仰

キリシタン関係遺跡には彼らの信仰の様子を示すものが多数発掘されています。実際に発掘されたものから、キリスト教を受容した人々の姿に迫ります。

〔主な資料〕  
指輪(大分県教育庁埋蔵文化財センター)  
メダイ(大分県教育庁埋蔵文化財センター)など



#### Ⅱ. 南蛮文化の精華

フランシスコ・ザビエル来航以降、多くの日本人はかつてみたことのない南蛮人に強い衝撃を受けます。こうして新しい意匠が生まれ、「南蛮文化」として花開きます。この南蛮様式の作品と16世紀の地図を通じてみる「日本」の認識を紹介します。

〔主な資料〕  
オルテリウス「アジア図」(大分市歴史資料館)  
象嵌南蛮人文鏡(津久見市)  
鉄地筋金象嵌桃形兜(南蛮兜)(大分市歴史資料館)など



#### Ⅳ. 府内太友氏の交流

南蛮貿易により多数の文物が行き交いました。これを示すものが太友府内町から発掘されており、太友氏の当時の海外交流の様子を紹介します。

〔主な資料〕  
中国青花皿(大分県教育庁埋蔵文化財センター)  
タイ線上手タンディー(大分県教育庁埋蔵文化財センター)など



### 行事予定

2010(平成22)年

#### 【企画展／特別展】

5月27日(木)～7月3日(土)  
九州のキリスト教シリーズⅡ  
南蛮の鼓動—大分に残るキリシタン文化  
〔場所〕西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

7月15日(木)～10月22日(金)〔予定〕  
シーボルト著「日本」にみる近世NIPPON  
〔場所〕西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

11月2日(火)～12月11日(土)  
海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相  
〔場所〕西南学院大学博物館1階特別展示室、2階講堂

12月13日(月)～3月1日(火)〔予定〕  
蒙古襲来絵詞と元寇防塁  
〔場所〕西南学院大学博物館1階廊下前、2階講堂

#### 【講演会など】

5月14日(金)  
学院創立記念日

6月20日(日)14:00～17:00  
福岡パッパコレギウム定期演奏会  
〔場所〕西南学院大学博物館2階講堂

6月26日(土)14:00～16:00  
春季特別展関連公開講演会  
【1部】14:00～14:30  
安高啓明氏(本学博物館学芸員)「大分に残る南蛮文化」  
【2部】14:30～16:00  
五野井隆史氏(東京大学名誉教授)「豊後キリシタンの盛衰」  
〔場所〕西南学院大学博物館2階講堂

7月17日(土)・18日(日)10:00～18:00  
第9回九州考古学会・嶺南考古学会  
合同考古学大会  
〔場所〕西南学院大学博物館2階講堂

その他、幅広いニーズに合わせて団体見学会等も実施しております。  
なお、予定は変更することもございますので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。



伊能秀明 監修  
『大学博物館事典  
—市民に開かれた知とアートのミュージアム—』  
(日外アソシエーツ、2007年) 590頁  
全国130の大学・短期大学などが設置している大学博物館162館の沿革や展示内容、主な所蔵資料などを紹介した事典。また、各館の教育活動や調査研究、発刊物を含めて掲載されていることから、大学博物館の活動・運営を網羅的に知ることができる便利な一冊です。

### 西南学院大学博物館

SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM  
〒814-8511 福岡市早良区西新3丁目13番1号  
TEL.092-823-4785 FAX.092-823-4786/博物館事務室  
URL <http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>

●開館時間のご案内  
開館時間／10:00～18:00(入館は17:30まで)  
休館日／毎週日曜日、夏期休暇[8/10～8/16]  
キリスト降誕祭[12/25]、年末・年始[12/28-1/5]  
入館料／無料

### 来館者掲示板

大阪から来ました、西南の卒業生です。とても懐かしく、思い出がいくつもよみがえってきます。パイプオルガンの流れる中、このひと時を神に感謝!  
(2010/02/05 Fさん 30代)

チャペルの自分が座っていた席に25年ぶりに座りました。なつかしくとても静かな気持ちになりました。今の在校生たちも同じ気持ちを味わってほしいです。(2010/02/13 男性 40代)

旧校舎はないけどチャペルは残っていて安心しました。  
(2010/03/01 男性 30代)

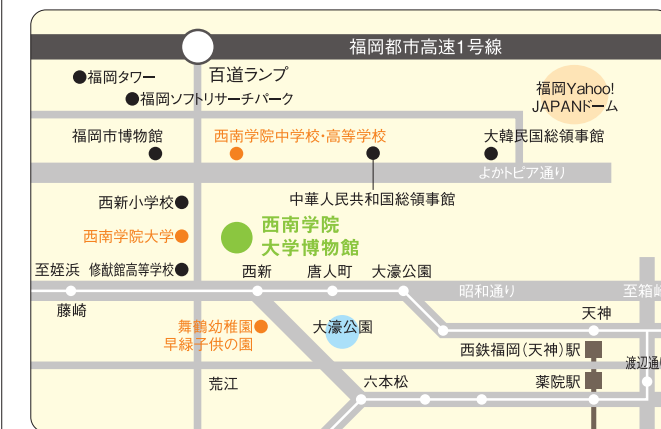
原点に戻りました。  
(2010/03/16 Y・Yさん 40代)

元吹奏楽部の卒業生です。思い出が湧いて、とてもなつかしく感じました。  
(2010/04/03 元吹奏楽部のみなさん)

西南の卒業生です。きっと私だけではなく、多くの卒業生にとってこのチャペルは思い出の詰まった特別な場所だと思います。ずっと残っていて欲しいです。  
(2010/04/24 Kさん 20代)

—ご来館者のみなさん、いつも来館者ノートにご記入いただきありがとうございます。たくさんのご意見・ご感想をいただいたなかで、今回は、西南学院卒業生の方々の声を集めました。当館は、2006年から西南学院大学博物館として生まれ変わりましたが、博物館としての新たな機能だけではなく、みなさんにとっての古き良き思い出の場所でもあるということを実感しております。多くの方々にとって、いつまでも心落ち着く場所であるようスタッフ一同心から願っております。  
(博物館スタッフF・Kより)

### アクセスマップ ACCESS MAP



福岡空港 → 西新駅下車 → 約17分  
博多駅 → 西新駅下車 → 約12分  
天神 → 西新駅下車 → 約8分  
※地下鉄西新駅(3番出口)から徒歩5分  
博多駅バスター → 修館館前 → 約35分  
天神 → 修館館前 → 約20分  
※修館館前・バス停から徒歩5分  
福岡空港(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約25分  
博多駅(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約20分  
天神(福岡都市高速・百道ランプ) → 大学 → 約15分

# News

西南学院大学博物館ニュース

Volume 03 2010.6

◎西南学院大学



最後の晩餐(中国様式)  
〔西南学院大学博物館所蔵〕

## 特集 最後の晩餐(中国様式)

博物館紹介◎ 西南学院大学博物館常設展示室 ～Part2 ユダヤ教と日本のキリスト教の紹介～  
特別展紹介「九州のキリスト教シリーズⅡ 南蛮の鼓動 大分に残るキリシタン文化」

所蔵品紹介 最後の晩餐(中国様式)

大学博物館紹介◎ 長崎純心大学博物館

大学周辺情報◎ 石碑に刻まれた校歌 西南学院校歌



## 西南学院大学博物館常設展示室 ～ Part2 ユダヤ教と日本のキリスト教の紹介～

前号に引き続き、常設展示室のなかからご紹介します。常設展示室の左側は「キリスト教の母体としてのユダヤ教」、「キリスト教の誕生と発展」、「日本におけるキリスト教」、「九州のキリスト教」のコーナーから構成されています。

キリスト教の母体であるユダヤ教を取り上げた博物館は、日本では少ないかもしれません。本学博物館では、ユダヤ教の儀礼でつかわれるトーラー（聖書）やメノラー（七枝燭台）をはじめ、各家でかかげられたメズーザー（護符）を展示しています。また、キリスト教が信仰されていた様子を「アイコン（ICON）」や「最後の晚餐」などの絵画資料により紹介しています。

「日本におけるキリスト教」、「九州のキリスト教」のコーナーでは、禁教時代を物語るキリシタン制札やマリア観音像などを始め、キリスト教解禁にともないもたらされた聖書を展示しています。江戸時代における禁教の厳しさとともに、解禁後の日本キリスト教史を紹介しています。

このほかに、キリスト教が誕生してからの年表や日本におけるキリスト教の布教から禁教、そして解禁に至るまでの変遷を年表にしています。また、東アジアで最初に伝わったことを示す

「大秦景教流行中国碑」の拓本を展示し、キリスト教の東方伝播を紹介しています。



「キリスト教の母体としてユダヤ教」コーナー



「キリスト教の誕生と発展」コーナー

「日本におけるキリスト教」コーナー

### 【大学博物館紹介③】

## 長崎純心大学博物館

長崎純心大学博物館の沿革は、1982年に純心女子短期大学長崎地方文化史研究所の開設にともない資料の一般公開を始めたことまでに遡ります。その後、1992年純心女子短期大学附属歴史資料博物館が開設されるにともない本格的な展示をはじめ、1994年の長崎純心大学の開学にあわせて、長崎純心大学博物館と改組されました。1996年には博物館相当施設となり、博物館実習の場としても利用されています。

常設展示室には、長崎純心大学の創立者やキリシタン研究にあたられた教職員の事績を紹介した学園史のコーナーがあります。そしてキリシタン資料を中心とした所蔵資料をもとに、

長崎のキリスト教史を禁教以前のキリシタン発展の時代から取り上げています。禁教下を象徴する「キリシタン制札」や「宗旨改踏絵帳」などを展示し、殉教と潜伏時代を紹介しています。さらに、日本カトリック教会が復活して以降のかくれキリシタンについてふれています。

博物館活動としては、各種テーマによる企画展のほかに、実習生による展覧会もおこなわれています。また、博物館講座や長崎学講座などの公開講座をはじめ、長崎純心大学博物館研究や長崎学研究などを毎年刊行しています。



常設展示室

開館時間 月～金/10:00～16:00 土/10:00～12:00  
入館料 無料  
休館日 日曜日、祝祭日、学校の定める休日、春・夏・冬休みの作業日  
連絡先 〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地  
TEL・FAX.095-846-0102  
URL <http://www.n-junshin.ac.jp/>

### 所蔵品紹介

## 最後の晚餐(中国様式)

The Last Supper (Chinese Style)

徹底した中国様式、哲人をモチーフ



この絵皿は香港の道風山キリスト教センターで製作されたものです。道風山の「道」はキリスト教、「風」は聖霊を意味しています。この絵皿は中国の哲人をモチーフとしたもので、ニプス（頭光）をつけたキリストを中心に、まわりに十二使徒を配して、最後の晚餐のテーブルを囲んでいます。右端には巾着袋をもった裏切りもののユダを描き、ユダが手に持っている巾着袋にはキリストをうって手に入れたお金が入っています。

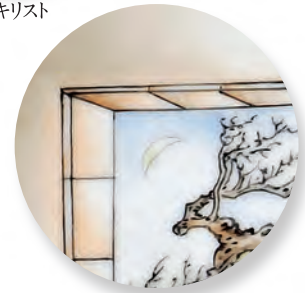
テーブルの上には一本の蠟燭が灯り、2枚のパンが置か



イエス・キリスト



裏切りもののユダ



夜空にうかぶ三日月

れた皿とグラスがあります。また、背後には松の屏風がたてられ、窓の外には三日月がうかんでいます。三日月は聖母マリアとともに描かれることが多い（三日月の上にたち天を仰ぐマリア、ヨハネの黙示録12章1節）ですが、この一枚の皿にキリスト教の要素が集約されています。

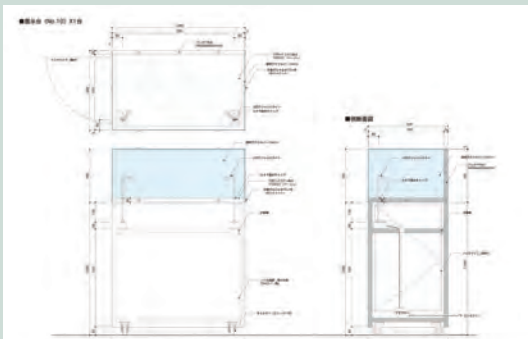
キリストと十二使徒は履物が異なるなど、細部にこだわって描いていることがわかります。こうしたキリストや十二使徒の容姿はもちろん、松の屏風で部屋のなかをしつらえるなど、徹底した中国様式の「最後の晚餐」として描かれています。

## 学芸員の眼

### — 展示の演出 —

博物館を訪れると、重厚なケースに入れられた貴重な展示資料に目を奪われます。資料（作品）のもつ素晴らしさはいまでもありませんが、こうした資料を引き立たせているのが、展示ケースであり、展示台や演具です。これらは資料を目立たせるための道具である一方、傷みの激しい資料にとっては、資料保護の点から不可欠です。時に大掛かりなものが作製されますが、これにともない莫大な費用がかかることもあります。

学芸員は常に資料保護の観点をもちながら展示公開をおこなっています。人を惹きつける演出をはかることは、資料



展示ケース設計図



完成した展示ケース

を傷めるリスクを負ってしまいます。資料への負担を少しでも軽減し、後年へ良い状態で残すために、資料に適した演具を業者と何度も協議しながら、造っていきます。多くの人にみってもらうためにあえて製作する展示台などには、学芸員のこうした気持ちが反映されています。「展示の演出」には欠かせないこれら「脇役たち」にも注目してみてください。

本学博物館学芸員 安高啓明



### 博物館通信

●2010(平成22)年3月2日(火)に開館(2006年5月15日一般公開)以来の入館者が、50,000人を突破しました。

●4月22日(木)に事務局新任職員の研修をおこないました。

●5月27日(木)から春季特別展「九州のキリスト教シリーズⅡ 南蛮の鼓動—大分に残るキリシタン文化展」を開催しています。

●6月8日(火)、西南学院小学校2年生が「花の日」で来館しました。お花とお手紙をいただきました。

●6月27日(土)に安高啓明氏(本学博物館学芸員)と五野井隆史氏(東京大学名誉教授)による第7回特別展関連公開講演会がおこなわれます。

●本学博物館で開催する秋季特別展「海を渡ったキリスト教—東西信仰の諸相」[会期:2010年11月2日(火)～12月11日(土)]は船の科学館・海と船の博物館ネットワークからの助成が決定しました。



開館にむけて準備中の博物館



開館当時の博物館



新任研修の様子



「花の日」のひとコマ

### スタッフの声

博物館に来たら、2階講堂の椅子に深くゆったりと座り、パイプオルガンや窓の外を眺めながら、大きく深呼吸してみてください。日頃何かと気忙しいことが多いですが、当館に一步入ると時間の流れがゆったりしています。運がよければパイプオルガンの音色を聴くことができるかもしれません。

また、博物館スタッフや関係者が作成したワークシートを活用していただくと、より当館のことがお分かりいただけると思います。ワークシートの建物マップを見ながら博物館を鑑賞するもおす

すめです。

当館は博物館自体が文化財であるとともに、今現在も「いい建物」です。たくさんの来館者の方々にもっと気軽に来ていただけるように、また、ますます居心地のよい場所になるように、スタッフ一同心よりお待ちしております。

臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程  
早瀬遼子

### 【大学周辺情報③】

## 石碑に刻まれた校歌 西南学院校歌

当館正面入り口付近にある石碑には、西南学院の校歌が刻まれています。創立者C.K.ドージャーから作詞の依頼を受けた水町義夫(後の第四代院長)は、「新約聖書」の「ヨハネ第二の手紙」を参考に作詞しました。作曲を手がけた島崎赤太郎(一八七四—一九三三)は、日本最初のオルガニストであり、当時の音楽界における立役者でした。そして「二九三(大正十)年に完成した校歌は、第二回卒業式から現在に至るまで、西南生たちによって歌われ続けています。

歌詞にある「松の緑、青春の色」は西南の特色の一つであり、白砂青松の百道松原といわれていたかつての西新校地を偲ばせるものです。また、「子等光明・生命・望愛」という聖書の言葉が込められたこの校歌は、学院の歌であると同時に、「信仰の歌」であるといえるでしょう。

臨時職員 本学大学院国際文化研究科博士前期課程  
小林史奈

